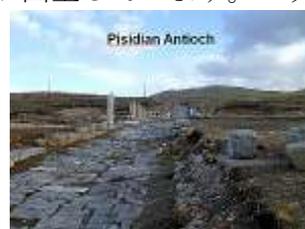


## I. 導入

おはようございます。先週の学びで、バルナバとサウロはアンティオキアからバルナバの出身地であるキプロス島に向けて出発しました。それは、イエスの良き知らせを告げ知らせるためです。ふたりはキプロス島で、ローマ帝国の役人で地方総督セルギウス・パウルスとすばらしい形で出会います。この時点から、サウロはパウロとして知られるようになります。ですから、この旅をパウロの第一次伝道旅行と呼ぶことができますでしょう。



今日の聖書箇所では、パウロとバルナバはキプロスを離れ、ペルゲへと出発します。そして、そこからピシディア州のアンティオキアまで旅します。この町の古代遺跡が出土しています。パウロとバルナバも、この写真にあるような町の大通りを歩いていたのでしょうか。ところで、アンティオキアという名の町がふたつあるのでややこしいのですが、混乱を避けるため、こちらは通常ピシディア州のアンティオキアと呼ばれます。



聖書には、パウロとバルナバが次の行き先としてこの町を選んだ理由についてはっきりと語っていませんが、ローマ帝国の歴史を少しさぐってみると、非常に興味深いヒントがそこにあります。この町は、地方総督セルギウス・パウルス の出身地だということです。確証はありませんが、総督がイエスを信じた後、自分の故郷に行ってイエスの名を告げ知らせるようパウロとバルナバに勧めたのかもしれない。では、**使徒 13:14-31** を読んで、話の展開を見てみましょう。

## II. 聖書朗読: 使徒言行録 13:14-31 (新共同訳)

13:14 パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。13:15 律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください」と言わせた。13:16 そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。13:17 この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。13:18 神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍び、13:19 カナンの地では七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。13:20 これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サムエルの時代まで、裁く者たちを任命なさいました。

13:21 後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシユの子サウルをお与えになり、13:22 それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』13:23 神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。13:24 ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。13:25 その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言いました。『わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたたちが期待しているような者ではない。その方はわた

しの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない。』

13:26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中において神を畏れる人  
たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。13:27 エルサレムに住む人々やその  
指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、  
イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させたのです。13:28 そして、死に当  
たる理由は何も見いだせなかったのに、イエスを死刑にするようにとピラトに求めました。  
13:29 こうして、イエスについて書かれていることがすべて実現した後、人々はイエスを  
木から降ろし、墓に葬りました。13:30 しかし、神はイエスを死者の中から復活させてく  
ださったのです。13:31 このイエスは、御自分と一緒にガリラヤからエルサレムに上った  
人々に、幾日にもわたって姿を現されました。その人たちは、今、民に対してイエスの証  
人となっています。

### III. 教え

この写真は、ピシディア州のアンティオキアにある会堂の遺跡で  
す。パウロとバルナバは安息日に会堂に行き、ユダヤ教の礼拝に参加しま  
した。このふたりが敬虔なユダヤ教徒であったことを改めて思いださせて  
くれる場面です。キリスト教信仰の根底には、ユダヤ教信仰があります。  
使徒たちは、新しい宗教を始めようと出かけていったわけではありません。  
むしろ、イエスこそが約束されたメシアであることを人々に知らせに行っ  
たのです。それは、旧約聖書にある救い主の来臨に関わる預言が成就した  
ということです。キリスト教が独自の宗教となったのは、エルサレムにいるユダヤ教の指導者の会  
議で、イエスがメシアであるという見解が却下されたからです。



**使徒 13:15**「律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、『兄弟たち、  
何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください』と言わせ  
た。」ここで、聖書箇所を二か所朗読し、会衆から誰かに分かち合いをお  
願いするのが会堂の習わしだったことがわかります。ユダヤ教の聖書は、  
私たちの聖書の旧約聖書と同じです。しかし、順序が異なります。タナハ  
と呼ばれるユダヤ教の聖書は、モーセ五書、預言者、諸書の3つの部分に  
分かれています。



モーセ五書と預言者の書から聖書朗読があつて、その後パウロが語るよう招かれました。**使徒 13:16**「そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。『イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。』」そしてパウロは、ユダヤ民族の歴史について大まかに振り返りました。私たちもパウロの模範に倣って、同じように歴史を簡単に振り返ってみましょう。



パウロはまず、**(使徒 13:17a)**「この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、」たという事実を民に思い起こさせることから始めました。そうすることで、パウロはユダヤ人の先祖、アブラハム、イサク、そしてヤコブを指し示しました。このヤコブは、後にイスラエルと呼ばれ、イスラエルの12部族の父となった人です。神は、彼らを選んで語りかけ、子孫が無数に増えること、そしてメシアが彼らの中から出ることを約束なさいました。

これらの約束が初めて登場するのは、創世記12章で神がアブラハムに語られた箇所です。**創世記 12:2**は、次のような主のことばを記しています。



「わたしはあなたを大いなる国民にし あなたを祝福し、あなたの名を高める 祝福の源となるように。」 主は続けて語られ、次の節はこのような約束で締めくくられています。「地上の氏族はすべて あなたによって祝福に入る。」地上の氏族がすべてアブラハムの子孫によって祝福されるとはどういうことでしょうか。それが可能になる方法はただひとつ、メシア、つまり国々の民の救い主がアブラハムの子孫から出てくることによってです。

パウロはおそらく、イスラエルの歴史やメシア、すなわち主イエスに関わる預言について広範囲にわたるメッセージを語ったことでしょう。使徒 13 章に記されている内容は、彼が語ったことのあらましに過ぎないと思われます。しかし、その短いあらすじでも、パウロの話した内容が示されています。モーセが力強い奇跡を用いてイスラエルの民をエジプトから連れ出すまでの 400 年について、また荒野で過ごした 40 年についてなどです。荒野での 40 年の間に、神は民に律法をお与えになり、礼拝のための幕屋建設について民に指示なさいました。また、ヨシユアの指揮下および士司の時代におけるカナンへの地征について、またサウロやダビデなどの王国時代についてなどです。



使徒 13:22 「それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』」ダビデに関するこの引用は、サムエル第一 13:14 と詩篇 89:21 を合わせたものです。これはすばらしい言葉だと思いませんか。誰もが、神の心に適う者になりたいのではないのでしょうか。ダビデは過ちも犯しましたが、若いときから死ぬまで、主を愛し、主に仕えました。

主は、ダビデの忠実さを認め、詩篇 89:4-5 で彼に次のような約束を与えておられます。「89:3 わたしは申します。『天にはとこしえに慈しみが備えられ/あなたのまことがそこに立てられますように。』 89:4 『わたしが選んだ者とわたしは契約を結び/わたしの僕ダビデに誓ったあなたの子孫をとこしえに立て/あなたの王座を代々に備える、と。』」[セラ] この約束によって、メシアがダビデの直系から出ることが保証されました。新改訳聖書には、「おまえの王座を代々限りなく建てる」とありますが、代々限りなく王座につけるのは、主だけだからです。

旧約聖書には、救い主についての預言が数多く記録されています。それらはイエスがお生まれになる何百年も前に書かれたものです。預言者たちは、来たるメシアについて繰り返し語りました。そして、具体的な内容がだんだん増えていきました。そういった預言の一例をここに紹介します：

メシアが処女から生まれ、神がともにおられるという意味のインマヌエルと呼ばれる、という預言がありました。イザヤ書 7:14 「それゆえ、わたしの主が御自ら/あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み/その名をインマヌエルと呼ぶ。」



メシアの生誕地については、預言者ミカが語っています。ミカ書 5:1 「エフラタのベツレヘムよ/お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。」

メシアが銀貨 30 枚で友人に裏切られ、そのお金で土地が購入される、と預言されています。その代金は鋳物師の土地を買うために使われた



ともあります(詩篇 41:9, ゼカリヤ書 11:12-13)。これらの預言は、ユダの行動によってもちろん成就しました。ユダはイエスの弟子でありながら、敵の手にイエスを引き渡しました。

メシアの苦しみと十字架刑も、詩篇 22 章とイザヤ書 52-53 章に詳細に渡って預言されています。これらの個所がはっきりと示しているのは、世の罪のためにメシアが苦しんで死ぬこと、また、それは私たちが赦しを得て、イエスを信じることによって新しい命を得るためであることです。



死と新しい命というテーマは、旧約聖書のたくさんの話の中に象徴的に描かれています。その一例は、創世記 22 章でアブラハムがイサクをささげる場面、またヨナの話などです。ヨナは、三日三晩大きな魚の腹の中で過ごし、その後大魚が彼を海岸に吐き出しました。これらの話は、メシアの来臨と死、そして復活の預言的前兆と言えます。

もちろん、もっと直接的な預言もあります。復活についてです。詩篇 16:9-10 にはこうあります。「16:9 わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。16:10 あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず」



他にもたくさんの預言や預言的な型がありますが、おおまかなあらましとしてはこれくらいで十分でしょう。パウロは史実と預言の大まかなあらすじを人々に話し、イエスを信じるようにと勧めました。使徒 13:26 「兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中にいて神を畏れる人たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。」この救いの言葉はわたしたちに送られたと言うことにより、パウロは、メッセージを聞いた人すべてが何らかの応答をしなければならぬことも示しています。使徒言行録の学びの続きは、クリスマスが終わってからになる予定です。その際、ピシディア州のアンティオキアの人々が、このメッセージにどう応答したかを見ていきたいと思えます。

#### IV. 結び

では、私たちはどうでしょう。私たち自身は、メシアであるイエス・キリストの来臨に関する歴史的事実はどう応答しますか。イエスの奇跡や迫り来る言葉にどう応答しますか。イエスは地上の公生涯の間に、盲人を見えるようにし、耳の不自由な人を聞こえるようにし、死人に新しい命を与えました。これらのことはすべて、このお方が救い主なる神であることを示しています。また、このお方の力強い言葉によって、すべてのものが癒しと回復を受ける日がいつしかやってくることも示しています。



イエスは、力をもって再び来られること、そのときにはすべてが癒され回復されることを約束されました。黙示録 21:4 の約束が成就するのです。「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」涙も死も悲しみもない世界はなかなか想像できませんが、これがイエスを信じるすべての者に神が約束してくださったことです。

私たちはイエスにどのように応答するでしょう。もっと言えば、私たちは神にどう応答するのでしょうか。神は創造主であり、命の源です。すべてのものは神の御手から来ています。神はどこか遠くにいて、人間の苦しみに無関心なお方ではありません。神の御霊をとおして、神は今ここに一緒にいてくださいます。神は実在するお方です。預言者を通して語られました。また、イエス・キリストという人のかたちでこの世に来てくださいました。来週は、クリスマスに焦点を当て、イ

エス・キリストという人のかたちで神がこの世に来てくださったことについて、もう少し詳しくお話したいと思います。私たち一人ひとりが、また私たちの家族や友人、大切な人たち、隣人が、心をイエスに開き、イエスを迎え入れますようにと祈ります。

最後に、イザヤ書 45:18-22 のみことばをお読みしましょう。「45:18 神である方、天を創造し、地を形づくり 造り上げて、固く据えられた方 混沌として創造されたのではなく 人の住む所として形づくられた方 主は、こう言われる。わたしが主、ほかにはいない。45:19 わたしは隠れた所で、地の闇の所で 語ったことはない。ヤコブの子孫に向かって 混沌の中にわたしを求めよ、と言ったことはない。わたしは主 正義を語り、公平を告知する者。45:20 国々から逃れて来た者は集まって 共に近づいて来るがよい。偶像が木にすぎないことも知らずに担ぎ 救う力のない神に祈る者。45:21 意見を交わし、それを述べ、示せ。だれがこのことを昔から知らせ 以前から述べていたかを。それは主であるわたしではないか。わたしをおいて神はない。正しい神、救いを与える神は わたしのほかにはいない。45:22 地の果てのすべての人々よ わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、ほかにはいない。」

V. 祈り